

JOINT

2019

ふれあう・つながる・まなびの輪
地域に響け!
そして
つながれ!



ふれあう・つながる・まなびの輪

東海大学地域連携センターは、地域の皆さまや自治体などとともにさまざまな地域課題に取り組み、東海大学の資源である人・力・場とのマッチングを行いながら、高等教育機関としての教育研究や社会貢献など、大学と地域との連携・交流・運営活動に取り組んでいます。

この冊子では、2019年度に皆さまと成し遂げたさまざまな事業を「地域交流」「地域連携」「地域還元」の3つに区分けしてご紹介します。今後とも東海大学の地域連携活動へのご理解とご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

Contents

03 地域連携紙『ちえん』

04 キャンパスを開放した交流活動

7つのキャンパスから

12 地(知)の拠点を目指す連携活動

東海大学の 地域ソリューション

14 学生が主体となる連携活動

地域が学生を育て、 学生が地域に恩返し

16 後援会が支える連携活動

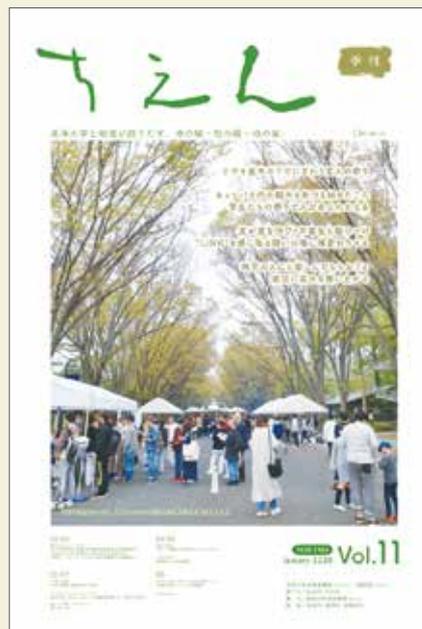
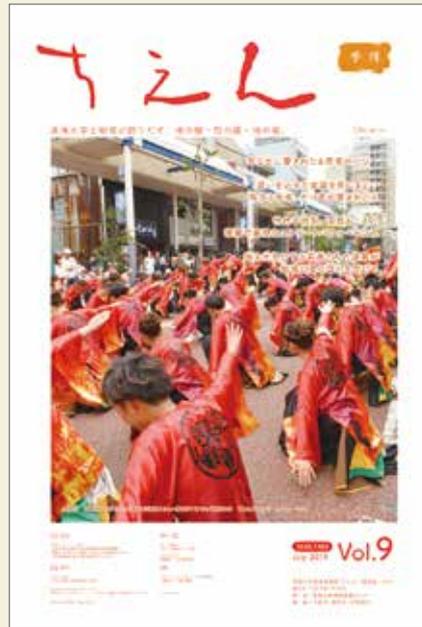
後援会助成金から 8プロジェクト発信

18 知の資源を提供する講座運営

知の輪 学びの輪



地域連携紙『ちえん』



「ちえん」とは……

「東海大学と地域が創りだす、地の縁・知の園・地の宴」をコンセプトに、湘南伊勢原キャンパス周辺の地域と大学との交流促進を目的とした季刊発行のローカルメディアです。大学と地域のかかわりを紹介する「ちえんの風景(表紙)」「ちえんをつくる人々」「地まつり探訪記」「大学から地域へ」、大学の地域連携活動を報告する「つかのほら通信」、学生の大学生活にフォーカスした「げしゅくLife」「学生4コマ漫画・MAD・DO・K!」、講座やイベント情報を案内する「学びたいときが、まなびどき 生涯学習講座」「Information」の9つのコンテンツを掲載しています。

ちえんのバックナンバーはWEBサイトにアップしています。左記QRコードを読み込んで、ぜひ過去の記事もご覧ください。

地域連携紙『ちえん』
バックナンバー



ふれあう

地域交流

キャンパスを開放した交流活動

7つのキャンパスから

東海大学の
7つのキャンパスを開放して、
地域に即した事業を展開しました。



湘南

KANAGAWA

キャンパス

地域住民と学生が キャンパスで ふれあう

TOKAIグローバルフェスタ2019

湘

南キャンパスでは2019年10月19日に、「TOKAIグローバルフェスタ2019」を開催しました。地域連携センターによる「キャンパス大学開放事業」の一環として、本学と包括協定を結ぶ神奈川県平塚市、秦野市、伊勢原市と連携して大学を市民に開放するオープンキャンパス型のイベントです。4回目となる今年は、14テーマ・81プログラムを用意。本センターが開催した新企画「人生100歳時代グラウンドゴルフ大会」には約300名が参加。イベント全体の来場者は4500名をこえ、キャンパスでの一日を楽しみました。

当日の様子はWEBサイトからご覧いただけます。

<http://coc.u-tokai.ac.jp/>
サイト内検索:グローバルフェスタ2019



3、14号館、3号館脇

親子で楽しむ防災広場



科学でフェスティバル!!

チャレンジフェア



目指せ!KENKOレンジャー!!

にこにこ健康教室



1号館 環境教室



4号館前 グローカルダンスショー



1、2、8、14号館、松前記念館前

湘南マルシェ



8号館 みんなでアダプテッド・スポーツ

4、11、12、13号館 Open Library

8号館 国際フェア



松前記念館 TOKAI × MUSEUM GO!!



1号館

4号館

2号館

松前記念館

10号館

8号館

噴水

芝生広場
Palette
パレット

野球場

13号館

15号館

陸上
競技場

12号館

1、10号館 TOKAIアートフェア



芝生広場 Palette パレット

人生100歳時代
グラウンド・ゴルフ大会



キャンパス
大学開放事業検討会

〔地〕 域連携センターでは2020年1月30日に湘南キャンパスで、「キャンパス大学開放事業検討会」を開きました。全国のキャンパスで継続的に実施してきた大学開放事業の担当者が一堂に会し、情報を共有するとともに事業の意義を再検証することで、各キャンパス固有の特徴を踏まえた地域連携活動の実践につなげることを目的としています。

当日は、高輪と清水の両キャンパスをテレビ会議システムでつなぎ、21名が出席。本センターの池村明生所長のあいさつに続いて各キャンパスから「南沢ラベンダー祭り」(札幌)や「イベントによる多世代交流の促進」(代々木)、「たかなわ子どもカレッジ」(高輪)、「TOKAIグローバルフェスタ2019」(湘南・伊勢原)、「望星丸」(洋上セミナー) (清水)、「世界行きたい科学広場 in 熊本」(熊本)などの事例を報告しました。また、それぞれの取り組みについて熱心な意見交換を行いました。

「MERRY SMILE SHIBUYA for 2020」に参加

観 光学部の学生有志約20名が2019年8月24日に、東京都渋谷区の国連大学で開かれた同区主催の文化イベント「MERRY SMILE SHIBUYA for 2020」に参加しました。

学生たちはキャンパスが含まれる同区西エリアにある20の観光スポットを紹介するMAPを作り、各地取材してその魅力を紹介する動画も上映。知られざる渋谷の魅力を伝えました。



Voice

“ 観光学部生「ブースに来場してくださった方々から“実際に行ってみたい”と言ってもらい、『地元で学ぶ大学生がお勧めしたい観光地』というコンセプトに沿った展示ができたという達成感がありました”

代 々木キャンパスで2019年11月1日、代々木学生会のメンバーが近隣の東京都渋谷区立富ヶ谷保育園の園児とともに、熊本キャンパスの農学部から提供され、苗から育てたサツマイモを収穫。「第65回東海大学代々木建学祭」期間中の翌2日に調理して来場者にふるまいました。4品種のサツマイモの苗は代々木キャンパスと熊本キャンパスをつなぐ取り組みとして贈られたもので、学生会のメンバーが袋に入れた土で育て、交代で水やりなどの世話を続けてきました。

代々木
TOKYO
キャンパス

夏祭りに観光スポット、サツマイモも美味!



富ヶ谷二丁目夏祭りをサポート

代 々木キャンパスの観光学部生約50名と教職員が2019年7月6日に、キャンパス内と東海大学通りで開催された「富ヶ谷二丁目夏祭り」の企画、運営をサポートしました。地域住民の方々と学生との多世代交流を深めるイベントとして観光学部生が協力するようになって3年目。今回も充実した企画を準備し、600名をこえる来場者があり、大盛況となりました。

農学部から提供されたサツマイモを収穫



よいしょ!! おいもはどこ?

小学生とのふれあい学習

高 輪キャンパスが東京都港区と連携して取り組んでいる「たかなわ子どもカレッジ」が、2019年11月30日と12月1日に、静岡県静岡市清水区を訪問しました。当日は、児童22名とチャレンジセンター「Takanawa共育プロジェクト」の学生6名が参加。海洋調査研修船「望星丸」や海洋科学博物館、世界遺産「三保の松原」などを見学しました。

たかなわ子どもカレッジ清水訪問



東海大学海洋調査研修船「望星丸」の甲板で「ハイ・チーズ」

Voice

小学生「水族館がとても楽しかった。また大学生といろいろなところに行きたい」
大学生「建学の地・清水を訪問する機会は少ないので、子どもたちと、とてもいい経験ができました」

たかなわクリスマスミニミニコンサート開催

2

019年12月11日に高輪キャンパスの学生食堂で、多様な地域コミュニティが世代間交流を図るクリスマスミニコンサートを開きました。大学開放事業「世代を超えた知の共有を目指した地域連動型教育プログラム」の構築の一環として企画したイベント。「たかなわ子どもカレッジハンドベルクラブ」「高輪混声合唱団」「Takanawa Jazz Ensemble」によるすてきな演奏が、キャンパス内のイルミネーションをさらに輝かせていました。





望星丸体験航海

「マリンフェスタの夏が来た！
〜そうだ、駿河湾へ行こう〜」

東海大学の海洋調査研修船「望星丸」の操舵室で説明を聞く参加者

Voice

参加者「もともと深海魚が好きで、本で勉強していたので、より詳しい話が聞けてよかったです」
参加者「船に乗る機会はなかなかないので、貴重な経験になりました」

”

し、体験プログラムなども楽しみました。

最後に参加者全員に乗船証明書をプレゼントしました。



海のフシギを 学びに行こう！

清

水キャンパスの海洋学部が2019年8月4日に、東海大学の海洋調査研修船「望星丸」を用いた体験航海「マリンフェスタの夏が来た！〜そうだ、駿河湾へ行こう〜」を開催しました。望星丸に乗船して駿河湾内を巡り、その特徴や魅力、本学部の教育と研究内容について理解を深めてもらうことが目的です。

当日は、県内外から親子連れなど63名が参加しました。参加者はデッキに出て、産官学民の連携による清水港の色彩計画や湾の周りにある企業について実際に目で見ながら学んだほか、班に分かれて操舵室も見学。「海洋生物の話」と題した2つの講義を受講

清水海洋展2019



駿河湾の「深海散歩」をVR体験

海

洋学部と情報通信学部が2019年11月30日と12月1日に、静岡県静岡市清水区清水港日の出ふ頭・清水マリンターミナルで開催された「清水海洋展2019」にブースを出展しました。当日は、約60名の学生と教職員が参加。ヒトデやカメなどに触れる「タッチプール」や「メガマウスザメの紙帽子工作体験」、駿河湾の深海をVRで体験する「深海散歩」などさまざまな企画を用意し、多くの親子連れが足を運んでいました。



地域は家族。医療相談も

「第43回伊勢原祭(建学祭)」



Voice

伊勢原祭実行委員長(健康科学部生)「予期せぬトラブルもありましたが、実行委員や教職員、参加団体の皆さんの協力で乗りきることができました。ご来場いただいた方々をはじめ、サポートして下さった多くの皆さん、実行委員の仲間たちに心から感謝します」

伊 勢原キャンパスで2019年11月2、3日に、「第43回伊勢原祭(建学祭)」を開催しました。学生と教職員、来場者が一体となって祭りを盛り上げようと、「Ohana」(ハワイ語で家族)をテーマに多彩なイベントを企画。連日、多くの家族連れや高校生でにぎわいました。

展示企画では美術部が絵画やイラストなどの作品を披露し、看護学科生が海外研修の成果をポスター発表。学生会は縁日を企画し、子どもたちから大好評でした。3号館前には学生サークルと職員による9つの模擬店が並び、松前記念講堂では、「デニス」大自然「8・6秒バズーカー」によるお笑いライブを実施。2号館のアリーナではダンス部がパフォーマンスを披露して祭りを盛り上げました。

認知症啓発イベント「認知症を知ろう」



医療スタッフが個別相談にも対応

医 学部付属病院が2019年9月12日に、認知症啓発イベント「第1回 認知症を知ろう」を開催しました。認知症への理解を深めてもらうと認知症疾患医療センターの認知症ケアサポートチームが企画したものです。会場の東海ホールでは、認知症の種類や症状、治療法、予防法などの最新情報をポスターで紹介し、本チームに所属する医師や看護師ら専門の医療スタッフが個別相談にも対応。近隣の住民ら多数が来場しました。



世界一に行きたい科学広場 in 熊本 2019



科学も農業も 楽しく学ぼう

熊

本キャンパスで2019年8月8日
に、「世界一に行きたい科学広場 in
熊本2019」を開催しました。当日は
約3000名が来場し、熊本、湘南、清水各
キャンパスの学生や教職員らが34のブース
を出展しました。

チャレンジセンターの「先端技術コ
ミュニティACOT」や「サイエンスコ
ミュニケーター」が、科学実験教室やもの
づくり体験などで子どもたちを楽しませ
たほか、NPO法人ガリレオ工場の滝川
洋二理事長(東海大学元教授)による「た
のしいサイエンスショー」にも多くの親
子連れが足を運んでいました。

農作物の収穫イベント



阿

蘇実習フィールドで2019年11
月7日、ハクサイやサツマイモなど
の農作物の収穫イベントを行いました。
東海大学では2018年1月に環境省、
熊本県と「阿蘇地域の創造的復興に向
けた地域循環共生圏の構築に関する協
定」を締結。その活動の中で、南阿蘇村
とともに熊本地震で被害を受けた阿蘇
地域の創造的復興に向けて「南阿蘇村
黒川地区創造的復興プロジェクト」に取
り組んでいます。今回のイベントもその
一環で、農学部学生25名と教職員、近
隣で学生アパートや下宿を運営していた
女性らでつくる「すがるの里」のメンバ
ーら地元住民約20名が参加しました。

Voice

小学生「理科の宿題で自由研究があるの、今日教えてもらったことを参考にして頑張りたい」
大学生「全国各地で活動していますが、熊本の小学生はとても元気な印象でした。準備は大変でしたが、多くの親子連れが来てくれてよかった」

収穫した農作物を住民に無料配布

※農学部・農学研究科の教育・研究については「臨空校舎」(2023年完成予定)「熊本キャンパス」及び「阿蘇実習フィールド」にて充実を図ります。



壁に挑戦、花咲く夏の日

南沢ラベンダーまつり



札幌キャンパス吹奏楽部の「ラベンダーコンサート」

Voice

「来場者「毎年楽しみにしているイベント。天候にも恵まれて、ラベンダーがとても鮮やかに見えました。学生さんの一生懸命な姿に元気をもらえました」



札 幌キャンパスで2019年7月21日に、「南沢ラベンダーまつり」を開催しました。チャレンジセンター「札幌ボランティアプロジェクト」が運営を担当し、当日は学生や地域住民ら約1100名が来場しました。特設ステージでは、札幌キャンパス吹奏楽部やよさこいサークル「東海大学「祭屋」」がパフォーマンスを披露して会場を盛り上げ、地域とのつながりを深めました。



子どもたちはすぐにコツをつかんでスイスイ



札 幌キャンパスで2019年6月15日に、公開講座「ボルダリング体験 南沢にウォール現る〜とにかく登ってみよう!〜」を開催しました。東京五輪で正式種目となった「スポーツクライミング」を未就学児や小学生に体験してもらおうと初めて開催したものです。また、10月19、20日には、続編として「SPORTS EVENT〜未来のオリンピックへ〜」を開催。日本人女性初のプロクライマーである尾川とも子氏による体験会と講演会を実施し、競技の魅力を伝えました。

「ボルダリング体験 南沢にウォール現る〜とにかく登ってみよう!〜」 & 「SPORTS EVENT ~未来のオリンピックへ~」

東海大学の 地域ソリューション

健康 ソリューション

近隣自治体に共通する大きな健康課題の一つとして健診受診率が低いという問題があります。健康ソリューションでは、東海大学と近隣自治体、神奈川県、民間が手を組むことにより、地域の健康課題解決に取り組んでいます。

防災 ソリューション

近年、頻発する自然災害は、市区町村範囲を越えた広域で発生し、大きな被害をもたらしています。防災ソリューションでは、隣接する神奈川県平塚市、秦野市、伊勢原市を主な対象として、地域の安心安全の中の防災に焦点を当て、市区町村間の広域連携による効果的な防災活動につながるよう取り組んでいます。



観光 ソリューション

人口減少社会の進展が地域にさまざまな影響となって表れてくることが懸念されています。観光ソリューションでは、地域特性や地域観光シーズなどを生かした域外からの交流人口の獲得や継続性、複数地域の連携の可能性を検討しています。

防災 ソリューション

防災教室・防災フェア



7/29岡崎地区で「DITSの投稿とまち歩き」の実施



8/24平塚市総合防災訓練(防災フェア)

工学部土木工学科の梶田佳孝教授の研究室では、2019年7月29日に神奈川県平塚市・岡崎地区で防災教室を開催。その様子を8月24日に行われた平塚市総合防災訓練の防災フェアで紹介しました。

防災教室では地域住民とともに地区内を歩き、災害時に崩れそうな石垣や家屋、防災倉庫や避難場所などを探し、梶田教授らが研究・開発したTwitterに災害情報を簡便に書き込める災害情報アプリ「DITS」を体験してもらいました。また、このデータをもとに学生が作成したハザードマップや撮影した写真・映像を防災フェアで紹介するなど、防災意識の向上に貢献しました。今回の結果も踏まえ、「DITS」の地域住民への貢献度の高さを確認。今後はさらなるアプリの普及に取り組んでいきます。

【地(知)の拠点を目指す 連携活動とは】

2013年度から地域連携事業を推進してきたTo-Collaboプログラムで培ってきたさまざまな地域連携活動の実績を基盤に、住民・自治体等のさまざまな地域課題に取り組み、地域コミュニティの中核的存在として地域貢献につながる活動です。



健康 ソリューション

健康バス測定会

2020年2月4日に神奈川県秦野市立南公民館で市民向けの「健康バス測定会」を行いました。健康学部健康マネジメント学科と大学院医学研究科ライフケアセンターが近隣市と連携して実施しているもので、健康学部の学生12名とロシアからの留学生2名が近隣住民約30名の体組成や骨密度、血管年齢、血圧を測定。測定後には、秦野市子ども健康部健康づくり課の保健師が一人ひとりに結果を説明し、日常生活での留意事項などを解説しました。



健康学部健康マネジメント学科の教員と学生が2019年12月14日に、小田原百貨店大雄山店を発着点とした2コースを歩く「歩いて！食べて！未病改善プロジェクト」を開催しました。神奈川県2019年度「県西地域大学連携事業」の一環で開いたもので地域住民ら22名が参加。ウォーキングの後は学生が提案した適塩で低栄養予防が期待できる「ロコモコ風アジババーグ丼！」も試食し、未病への理解を深めました。



歩いて！食べて！未病改善プロジェクト
みんなでわくわく健康ウォーク



観光 ソリューション

大井町の魅力を活かした 未病を改善する 農村民泊プログラム共創事業

観光学部観光学科の遠藤晃弘講師のゼミでは、神奈川県の2019年度「県西地域大学連携事業」に採択された「大井町の魅力を活かした農村民泊プログラム共創事業」を展開。神奈川県の南西部に位置する大井町の農村民泊プログラムを大学(学生)と地域が連携してとも

につくり上げ、未病を改善する地域としての魅力向上につなげる取り組みです。民泊の受け入れ先や行政の担当者と意見交換を重ねたほか、地域のイベントに参加するなど準備を進め、2020年1月11日と12日には「かみさまとシノキが見守る里山で こども農村民泊チャレン



切干大根を作りました



どんど焼きのおだんご作り

ジ!」と題してモニターツアーを実施。本事業を通じて地域参加による議論の活性化が見られるようになりました。

伊勢原市市制50周年 記念ロゴマークをデザイン

教養学部芸術学科デザイン学課程の北村亜己さんが、神奈川県伊勢原市の市制施行50周年を記念するロゴマークをデザインし、2020年2月4日に伊勢原市役所で高山松太郎市長に写真左を表敬訪問しました。

2021年3月に迎える市制施行50周年に向けた記念事業として、本学と締結している包括連携協定に基づき依頼を受けたもの。50周年の「0」を伊勢原市の特産品であるコマクサー「クルリン」を配置し、華やかにデザインしました。



学生が主体となる連携活動

地域が学生を育て、 学生が地域に恩返し

外国人観光客向けに 英語でガイド



“ 観光学部生「英語力が足りない実感しました。日本文化についてもわかっているようできちんと理解できておらず、突然寄せられる質問に対応しきれなかった。反省点を生かして今後の勉強につなげたい」 ”

国際教育センターの教員が代々木キャンパスの観光学部向けに開講している「英語ゼミナール・アカデミック英語セミナー」の履修学生約20名が2019年7月5日、10日に、東京都内で外国人観光客に英語でガイドを務め英語力を養いました。学生たちは「HARAJUKU KAWAII TOUR」や「MEIJI SHRINE TOUR」といったタイトルのツアーを企画。SNSで募集したアメリカやドイツ、フランス、スイスなどからの訪日外国人に英語で解説しながら、明治神宮や原宿界隈を巡りました。

健康学部の学生と教員が、2019年10月5日に神奈川県秦野市立本町公民館で開かれた「健康はだの21フェスティバル2019」に協力しました。秦野市は「壮年期死亡を減少させ、健康寿命の延伸を図り、生活の質を向上させること」を総合目標とする「健康はだの21」を策定し、健

康づくり事業や生活習慣病を見直す場の提供などに取り組んでいます。今回の催しもその一環。健康学部健康マネジメント学科の石井直明教授が未病改善講演会の講師を務め、学生たちは来場者の体組成や骨密度などを測定しました。



骨密度測定

「健康はだの21フェスティバル2019」

【学生が主体となる連携活動とは】
学生による連携活動は、地域との活動を通じて授業では学ぶことができない実践力を身につけること、そして、育ててもらっただけでなく、地域から評価していただけるような地域貢献をし、地域に恩返しをする活動です。

三保活性化プロジェクトが アクティブブニ保を開催

チャレンジセンター・ユニークプロジェクト「三保活性化プロジェクト」が2019年10月6日に、三保ハーバルキャンプ場(静岡県静岡市清水区)で「アクティブ三保」(共催=三保生涯学習交流館)を開催しました。9回目となる今回は、「海中美化プロジェクト」Shark Amazing Projectも参加。バルーンアートやプラコップター飛ばしなどのゲームのほか、サメの生態紹介や水辺生物のポスター展示などを実施し、三保地区の活性化に協力しました。



プラコップターを飛ばそう

オレンジ カクテルナイト in Yoshino

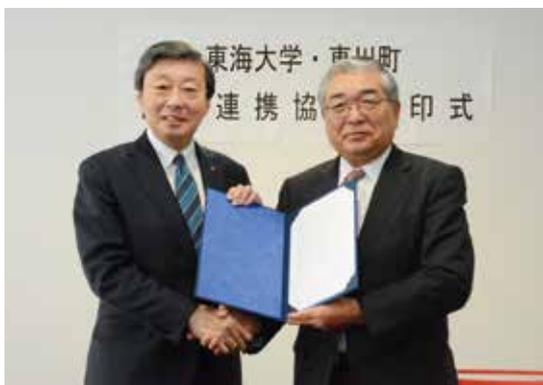
経営学部観光ビジネス学科の小林寛子教授のゼミでは2019年10月19日に、熊本県熊本市西区河内町芳野地区で「オレンジカクテルナイト in Yoshino」を開催しました。

観光名所「草枕の道」をはじめ、学生と地域住民が考えた4つのコースを「宝探しウォーク」として巡ったほか、ミカン狩りや、有明海に沈む夕日をバックに学生が考案したオリジナルカクテルを楽しむ、地域の方々と交流を深めました。

北海道東川町と 包括連携協力に関する協定を締結

東海大学では北海道上川郡東川町と、教育、まちづくりなどの分野で協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とした協定を締結。2019年11月29日に、東川町で締結式を行い、松岡市郎町長(写真右)と山田清志学長(同左)が協定書に署名しました。

同町で学生のフィールドワークを行い、本学の織田憲嗣名誉教授が保有する北欧デザインを中心とした名作イリスの『織田コレクション』を活用したデザインに関する学びのプログラムを展開する計画です。



スポーツ医科学研究所では2019年6月13日に湘南キャンパスで、長野県小諸市の小諸市エリア高地トレーニング推進協議会と連携協定を締結しました。高地トレーニング研究の発展と小諸市民の健康増進やスポーツ医科学研究所の推進が目的。締結式では小諸市の小泉俊博市長(写真右)と本研究所の宮崎誠司所長(同左)が協定書を取り交わしました。

小諸市は日本で唯一、標高約2,000mの高地に宿泊施設やトレーニング環境を備えており、東海大学陸上競技部駅伝チームも合宿を行っています。

小諸市の協議会と 協定締結



キャンパス内にある低圧室やトレーニング施設を案内しました

後援会助成金から 8プロジェクト発信

【東海大学連合後援会研究助成金とは】

東海大学連合後援会では、2004年度から環境に関連した研究を支援しています。2018年度から研究部門に加え、地域をキーワードに教育・研究を助成する「地域連携部門」を新設し支援しています。

「東海大学後援会」は本学学生の保護者による組織で、大学と家庭、地域社会の架け橋となり、充実した学生生活を送れるようサポートすることを目的に設立されました。国内50地区、海外1地区の地区後援会からなり、その連合組織が連合後援会です。

掲載事業以外の採択事業

事業名 1703年元禄地震による東海道の宿場の被害と地盤との関係
代表者 三神 厚 工学部土木工学科教授

事業名 心肺停止からの社会復帰率向上のための地域連携による教育・研究の展開
代表者 山本 義郎 理学部数学科教授



彩とりどりの子どもたち： 多文化共生社会創出 に向けて協働

事業名 秦野市・東海大学連携による多文化共生に関する講演会開催
代表者 小貫 大輔 教養学部国際学科教授

神 奈川県秦野市やその他近隣市町の教育委員会、外国人の集まる教会や、外国籍児童生徒を支援する市民グループなどと協力して、多文化共生社会の創出に向けた活動を実施しています。外国籍児童、生徒の保護者および幼小中学校の先生方に聞き取りを実施した上で両者の対話を取りもち、地域レベルから全国レベルまで各種の勉強会や研修会、講演会、国際フォーラムを開催するとともに、外国籍保護者に小学校の算数や国語、英語などの授業内容を紹介する授業を開くなどしました。チャレンジセンターのプロジェクトに所属する学生たちの協力を得て、地道な学習支援活動も定着しています。

事業名 地域における映像資料の活用に関する実践的研究
「学前ローカルイメージラボと夕暮れ映像祭の企画運営」
代表者 水島 久光 文化社会学部広報メディア学科教授

2 019年12月2、3、5、6日に小田急線「東海大学前駅」南口のタウンニュースホールで、「夕暮れ映像祭2019」を市民や地域メディアの参加を募り開催しました。戦争や震災にかかわる映画の上映や、「まちづくりとアーカイブ」「ダムと生活」「戦争と子ども」「記憶を未来につなぐ」の4テーマでトークセッションを実施。地域を題材とした写真や映像資料を市民とどのように共有・活用していくかを考えました。



夕暮れ映像祭2019

マナマコ中間育成技術の確立

事業名 北海道留萌市におけるマナマコ中間育成技術開発を通じた地域連携強化

代表者 櫻井 泉 生物学部海洋生物科学科教授

東 海大学と地域連携協定を締結する北海道留萌市の地域水産業の活性化に向けて、「マナマコの中間育成技術の確立」を目指しています。マナマコは中国などからの需要が高く、魚価が高騰しており、地域にとって重要な水産資源となっています。しかし、稚ナマコ種苗の生産技術が進歩する一方で、中間育成技術は確立されていません。そこで、マナマコ種苗を空気ポケットフエンスが備わった育成施設に収容し、成長・生残を追跡調査。適切な収容密度を算定することにより、本種の成長に適した収容数を推定することができました。



マナマコの種苗

対話力を育み 持続可能な社会へ

事業名 大学生による中学生のための学習支援…東海大学ESD塾
代表者 二ノ宮リムさち 現代教養センター准教授

E SD（持続可能な開発のための教育）とは、社会の課題を自らの問題としてとらえ、行動を起こすことで、「持続可能な社会」を創造していく力を育てる取り組みです。
湘南キャンパスで毎週水曜日に「東海大学ESD塾」を実施し、社会教育主事や教員の免許取得を目指す学生らが中心となって神奈川県秦野市立大根中学校の生徒の勉強や宿題をサポートしています。2019年12月と2020年1月には現代教養センターの開講授業「パブリック・ワーク」と「挑み力演習」を履修している学生たちが考案した「対話のちからをはぐくむプログラム」を7回にわたり実施し、持続可能な社会づくりにつながる社会的実践力を養いました。



高齢者の作業風景

高齢者のマインドアップ

事業名 高齢者介護施設入居者の社会活動参加の仕組みの構築および社会活動参加による健康度への効果検証

代表者 池内 真弓 健康学部健康マネジメント学科准教授

神 奈川県内にある高齢者介護施設の入居者のマインドアップの向上を目指して、入居者が「仕事」を担うことで活躍できる場所や社会貢献できる機会を設けることを目的とした取り組みを行いました。仕事に取り組んだ高齢者と取り組まなかった高齢者を比較するとコミュニケーション面では、特に女性にはよい影響が出ている可能性があります。また、認知力の評価においても仕事をした人の認知機能が維持・向上する傾向が見られる結果となりました。

肥後の名産品を養殖し、 環境意識も向上

事業名 スイゼンジノリ養殖および「南阿蘇・スイゼンジノリ」のブランド化と地域活性化

代表者 福崎 稔 九州教養教育センター教授



肥後名産品スイゼンジノリ

スイゼンジノリは古くからの肥後の名産品。鉄分などミネラルを多く含むことから栄養補助食品として珍重され、化粧品製剤としても注目されています。この事業を通して自然と共生する雇用の創出と、環境保全意識の向上、水の郷としての誇りの醸成に取り組んでいます。

熊 本県南阿蘇村に点在する水源湧水を利用してスイゼンジノリを養殖することで、南阿蘇村の地域活性化への起爆剤、水源地域村民の環境意識の向上に貢献することを目的としています。
東海大学では2016年の熊本地震発生から、震災復興と南阿蘇村地域の活性化に取り組んでおり、地域循環共生圏づくりプラットホーム事業計画が熊本県と同村から提案されるなど、これまでの活動が実を結び始めています。本活動もこれらの取り組みの一環です。

学びの輪

東海大学地域連携センターの生涯学習講座

知の輪

〔東海大学の生涯学習講座とは〕
札幌から熊本・阿蘇までの7つのキャンパス・1つの実習フィールドに、19学部75学科・専攻・課程を有する広域総合大学の長所を生かし、多様な学問領域の“知”を地域の皆さまに積極的に還元すべく、講座を開講しています。

北欧のクリスマス体験

講師：浅井 亜希
柴山 由理子
Lise Schou(リーゼ スコウ)
今井 マドレーヌ

文化社会学部北欧学科講師
文化社会学部北欧学科講師
文化社会学部北欧学科非常勤講師
元国際教育センター非常勤講師



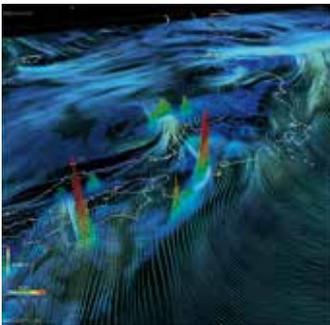
本場北欧のクリスマス体験

クリスマスの基本知識を学び、装飾のワークシヨップや、スウェーデン人、デンマーク人の先生とクリスマスの食事を作り、実際の過ごし方についてのお話を聞くなど、実習を中心に北欧のクリスマス体験する講座を開講しました。

天気図を読んで気象災害に備える

気象予報士によるお天気講座3

講師：新井 直樹
情報技術センター・工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻教授



集中豪雨の風と雨のシミュレーション

台風、低気圧、梅雨前線などの天気図に色を塗る作業を楽しみながら、初めての方から詳しい方まで理解度に合わせて学ぶことで、最近増えているゲリラ豪雨や災害に備えるためのヒントになる講座を開講しました。

土器に秘められた文化の意味を解説

考古学講座II

講師：秋田 かな子 文学部歴史学科考古学専攻准教授

縄文土器は、縄文文化を象徴する代表的な遺物です。その発達した造形や文様がいったい何を表していたのか？ 当時の社会の中で確実に意味を持って役割を果たしていたことは疑いありません。縄文社会に息づいた土器文化の意味を読み解く講座を開講しました。



発酵食品チーズの おいしいチカラ

チーズを知ってチーズを作る

講師：井越 敬司 東海大学名誉教授
元東海大学農学部バイオサイエンス学科教授



チーズは乳を利用するさまざまな文化の中で育まれた発酵食品であり、人の健康維持にもつながる食品として注目されています。おいしいチーズとチーズが育む豊かな健康生活を知るために、牛乳などの乳や乳酸菌を利用した発酵乳についての講義と実践的な衛生管理を含めたモッツアレラチーズとクリームチーズづくりを行う講座を開講しました。

チーズは乳を利用するさまざまな文化の中で育まれた発酵食品であり、人の健康維持にもつながる食品として注目されています。おいしいチーズとチーズが育む豊かな健康生活を知るために、牛乳などの乳や乳酸菌を利用した発酵乳についての講義と実践的な衛生管理を含めたモッツアレラチーズとクリームチーズづくりを行う講座を開講しました。

〔2019年度実施講座 主な講座〕

- ヨーロッパ世界遺産紀行
- 漢方講座〔テーマ別〕
- 元記者と学ぶ新聞の読み解き方〔テーマ別〕
- 楽しく韓国語〔レベル別〕
- スウェーデン語〔レベル別〕
- ノルウェー語〔レベル別〕
- 考古学〔テーマ別〕
- 大人のためのピアノ教室〔個人・グループ別〕
- ジャズを聴く
- 草原で育つあか牛のおいしさを知る
- ローズと心の栄養セミナー
- ワイン講座〔テーマ別〕

生涯学習講座 申込案内

東海大学生涯学習講座は、WEB・電話にて講座の申込を受け付けています。

講座も広域総合大学の長をかし、語学をはじめ、文学・歴史・健康・ビジネスといった多彩なジャンルの講座が目白押し!

前期(4月~9月)、後期(10月~3月)に分かれて開講していますので、ぜひ1度、WEBサイトをご覧ください!

東海大学地域連携センター 生涯学習講座

<https://ext.tokai.ac.jp/>

渋谷ハチコウ大学

2019年度後期から「自らの生涯現役を考える・探すきっかけ」として、S-SAP協定を締結している東京都渋谷区の運営する区内大学「渋谷ハチコウ大学」と連携し、生涯学習講座を提供しています。

S-SAP
Shibuya City Social Action Partner



メディカルハーブでケアする不調

講師：青山 泉
医療技術短期大学看護学科助教

最新のメディカルハーブによる美肌や美白ケアを体感できる講座です。ハーブに含まれる栄養成分の相乗効果が期待できるレシピを紹介するほか、リラククスや睡眠により神経の鎮静、気分を整えるなど心のケアに効果的なハーブを、楽しい実習を通して学び、人気を博しました。



ハーブでリラククス

外国語を学ぶ

語学講座(湘南キャンパス)

湘南キャンパスの語学講座では、英語・韓国語・フランス語・中国語の4言語・全13クラスを初級から上級までレベル別に開講しています。また、ネイティブスピーカーを講師に、「読む・書く・聞く・話す」を通して文法から会話の実践まで幅広く学ぶことができる講座を開講しました。





東海大学地域連携センター活動報告書 2019「ジョイント」

発行 東海大学地域連携センター
〒259-1292
神奈川県平塚市北金目 4-1-1
TEL : 0463-50-2406
FAX : 0463-50-2034
URL : <http://coc.u-tokai.ac.jp/>
2020年5月発行

地域連携センター
WEB サイト



facebook

